



レ
ク
サ
ス
U
S
A
が
認
め
た
エ
ア
ロ
ボ
デ
イ

///GTR×NSX×LC

ARTISAN SPIRITS

ア-ティシ-ャンス-ピ-リ-ツ ☎048-422-4841 <http://artisanspirits.co.jp>

BLACK LABEL GT LC500

SNSの普及により世界中の情報が気軽に取得できるようになった現在。カスタマイズの世界にも大きな変化が生まれている。言語の壁が取り払われ、純粋にいいモノが認められる環境が整ってきたのだ。そんな時代に飛躍を遂げてきたア-ティシ-ャンス-ピ-リ-ツ。その真髄に迫る。

圧倒的なオーラを放つ 漆黒のスポーツカー

1970年代中盤、ウルフ・カウンタックという希有なるスーパーカーが存在していたことをご存知だろうか。カナダの石油王、ウォーター・ウルフ氏が特注オーダーしたというこのマシンは、標準のカウンタックをオーバーフェンダー化。335mm幅という極太サイズのピレリタイヤを収めた。エンジンはV12に換装され、大型のウイングで武装…と、当時のスーパーカーの礎を築いた存在として知られている。

漆黒のワイドボディ。ア-ティシ-ャンス-ピ-リ-ツ

が手掛けたブラックレーベルLC500を目の当たりにして、そんなウルフ・カウンタックの雄姿がふと頭をよぎった。時代も違えば形もまったく異なるが、それほどLC500が圧倒的なオーラに包まれていたのだ。

カッコイイと思う感覚は、万国共通である。このLC500は、フロントが片側30mm、リヤは50mmワイド化しているとか、スーパーGTで培ったエアロダイナミクスのノウハウを注入している…などと語ってみたいところで、さほどユーザーの琴線に触れることはないだろう。それよりも、どれだけの人々が、直感的に素晴らしいフォルムだと感じるか否かだ。

20年の歴史を紡いできたア-ティシ-ャンス-ピ-リ-ツが、さらなる飛躍を遂げるべく、全身全霊を掛けて取り組んだというこのアニバーサリーモデルは、2018年SEMAショーのレクサスUSAブースにて披露され、世界中のカスタムフリークを虜にした。今ではいくつかの現地ディーラーで純正オプションとして採用され、2018年のゴールドラッシュラリーではレクサスUSAのオフィシャル車輿にも装着されている。

スポーツカーはいつでも憧れの存在だ。だからこそ人々を魅了するオーラが求められる。ブラックレーベルGT LC500はそうした要件を十分に満たした、希有なる1台といえる。

PHOTO：河野マルオ
REPORT：石川大輔



デザインする上で意識したのは、クルマが持つ基本性能を妨げることのない機能性を備えつつ、そこに佇んでいるだけで走り出す姿がイメージできる疾走感のあるフォルムとか。さらに、このエアロキットで特筆すべきは、ステップアップが可能なこと。いざワイドボディ化に着手する際も、ナローボディで装着したフロントアンダースポイラーが無駄にならないのだ。

PARTS LIST

カーボンフューゼットキット	¥1,400,000
フロントアンダースポイラー/サイドアンダースポイラー/リヤディフューザー/GTフェンダーキット/GTウイング	
ナンバープレート(CFRP)	¥24,000
カーボン/ドリフト(艶あり/艶なし)	¥68,000



ボルテックスと共同開発したGTウイングに加え、トランスポイラーやディフューザーを装着することで、存在感を高めたリヤビュー。どこか優等生的なイメージもあるLCを、ワイルドな印象へと大きく変貌させている。当然ながら、これらのアイテムは空力性能の向上にも大きく貢献する。機能性と美しさを兼ね備えたエアロパーツとなっている。

アスリートの肉体を彷彿とさせるフォルム

今までのルールに捕らわれず、物事の本質を突き詰めていった結果、生み出されたと言う雷克萨斯LCの美しいライン。その素性の良さを引き上げるべく、アーティシanshipピリッツの挑戦が始まった。先述した通り、このワイドボディはブランド20周年を記念したプロダクト。今後のエアロデザインの指針とするべく、全力で開発に取り組んだ意欲作だ。

「当時はリベット留めのフェンダーが全盛で、多くのメーカーがそうしたトレンドを積極的に取り入れていました。しかし、我々は別なアプローチでLCを手掛けたいと考えたんです」と振り返るのは、代表の公文さん。

コンセプトに掲げたのは「より鋭く、より優雅に」走りのイメージを彷彿とさせるデザイン。これを実現するために、雷克萨斯USAや現地チューナーをも巻き込み、理想のスタイルを具現化していった。そして生み出されたのは、まるで鍛え上げられたアスリートの肉体のような、美しいボデ

ィフォルムである。

もともとワイド&ローフォルムを極めた雷克萨斯LCだけに、ひとつ間違えればバランスを大きく崩しかねない。しかし、アーティシanshipピリッツでは、これまで培ってきた卓越した技術力と類まれなるセンスにより、あたかもそれがデフォルトであるかのような、美しいボディラインを見事に表現してみせた。

躍動的なフォルムは世界を魅了した。しかし、その伝説は始まったばかりだ。ウルフ・カウンタックがこの世に生み出された時のように…。

ARTISAN SPIRITS // GTR×NSX×LC レクサスUSAが認めたエアロボディ



BLACK LABEL GT LC500



大胆なダクトを配したボンネットフードやエアロ3点、トランスポイラーについてはFRPのほか鍛造リカーボンプタイプも設定。好みに応じてチョイスすることが可能になっている。また強力なダウンフォースを生み出すGTウイングは、このエアロボディに合わせて設計された専用品。ボルテックスとのコラボにより、デザイン性と機能性を高次元で両立した逸品に仕上がった。

GTマシンのエッセンスを取り入れつつ、絶妙なラインで構築されたワイドフェンダー。フロント30mm、リヤ50mm(片側)のワイド化を果たしているが、ボディ形状を尊重するデザインとなっており、その仕上がりはあくまで自然。後方に大型ダクトを設けたアグレッシブなデザインを採用しつつも、クルマに調和するフォルムとなっているのが見事だ。ホイールはOZ Racing ZEUS(F9.5Jx20、R11Jx20)をチョイスする。



///GTR×NSX×LC
TOP SECRET



最強系マスターピース。
R35GT-R M17 EDITION



トップシークレット
永田和彦さん

「俺がいまココにいるのは、GT-Rのおかげだよ。
どんなクルマよりも魅力がある」



MY17イメージをベースにしなから、各部に走行風を活用するためのディテールを投入したバンパー。ボディ下面への空気の巻き込みを防いで整流を行うことで、高速域でのボディリフトを抑制し、走行安定性の向上を図っている。



トップシークレットのニューバンパーはMY17の特徴であるVモーションを採用しているため、そのまま初期型～MY2016に装着するとボンネットとのプレスラインが合わなくなる。そこでMY17デザインの新しいエアロボンネットも開発。積極的に排熱を行うためのダクトを配置し、サーキットアタックなど高負荷走行時にマシンの信頼性を格段に高めてくれる。



足元を彩るのは、イタリアの名門ホイールメーカー「OZ」とトップシークレットのコラボで誕生したR35専用の鍛造モデル「35GT-R SF」(FR 11J+15)。サスは純正ダンブトロニック機構を活かせるオリジナルの車高調キットにエアリアターを組み合わせて、スロープや段差も楽々とクリアできる仕様を構築した。



リアバンパーおよびリアアンダーパネルもMY17イメージのニューモデルを開発。左右に大きく用意された放熱ダクトがアグレッシブだ。R35全年式に対応する。



車検対応の範囲内でどこまで性能を引き出せるかに挑戦した意欲作。数多くのサーキットテストから導き出した形状は効率的にリヤのダウンフォースを稼いでくれる。製品はハイマウントストップランプ付きだ。

PARTS LIST (without tax)

M17 フルバンパーキット	CARBON	¥330,000
	FRP	¥270,000
M17 エアロボンネット	CARBON	¥220,000
	FRP	¥150,000
M17 フロントワイドフェンダー	FRP	¥180,000
M17 リヤバンパー	FRP	¥180,000
M17 リヤアンダーバンパー	CARBON	¥220,000
	FRP	¥170,000
M17 リヤオーバーフェンダー	CARBON	¥120,000
	FRP	¥90,000
サイドディフューザー-Ver.2	CARBON	¥145,000
	FRP	¥110,000
GTウイング ST	CARBON	¥260,000

しいデモカーに体现されている。これまでのデモカーは、オーバー1000psのサーキットスペックや時速400km/hを目指したナルド最高速スペックなど、第三世代のパフォーマンスを限界以上まで引き出す尖った仕様ばかりだったが、2019年の東京オートサロンで発表された新たなGT-Rは、それらとはまるっきり別方向で仕上げられているのだ。

誤解を恐れずに言わせてもらうならば、この白銀のデモカーは、現時点におけるR35GT-R最強スタイルかも知れないと強く思う。

生い立ちを知らずとも、第三世代GT-Rが戦いの中で磨き抜かれてきた屈強なアスリートであることは、その闘争本能の塊とも言うべき無骨なエクステリアを見れば、誰の目にも明らかだ。だからこそ、サプライヤー達はその味を生かしたチューニ

ングメニューをもって、GT-Rを育てている。走り最優先のバトルマシンというレール上で、である。

大きな括りでまとめるならば、このチューンドもその路線を走る1台だが、トップシークレットが創出したトランスフォーマーばりのマテリアルの数々、この落ち着いたあるアルティメイトメタルシルバーのボディカラーとポリッシュの「O・Z 35GT-R SF」が織りなすコントラストはどうだ。言うなれば戦士と紳士の融合。比類なきインパクトを放ちつつも、GT-R固有のヤンチャな色見は影を薄め、大人びたアピアランスが前面に押し出されているのではないか。

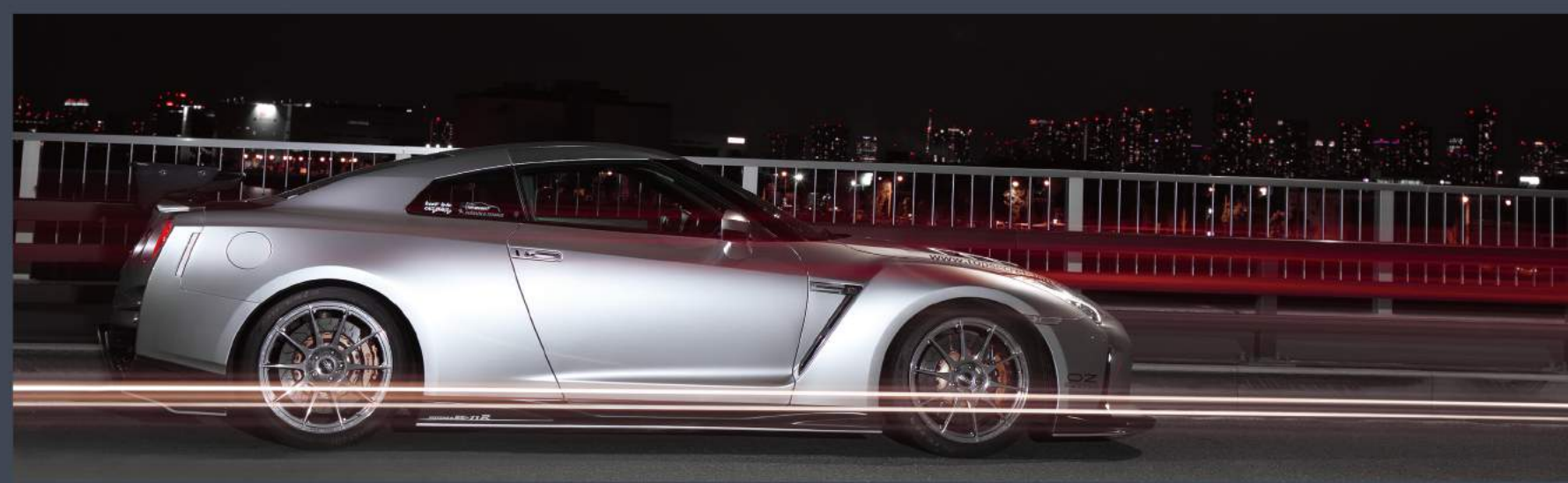
こうした絶妙なバランス感覚は、さすがトップシークレットと言うべきか。「R35チューニングは成熟期に入ったと思っている。そこで今度は、第三世代GT-R本来の持つ

レミアム感をもっともっと高める方向で仕立ててみようと思って。GT-Rには、まだ色々な顔が隠されていると思う。それをひとつずつ引き出して行くのが楽しくて。もう趣味だよ、趣味」。

永田和彦にとって、R35は特別の存在だ。なぜなら、負の波に翻弄される時代を悲観するあまり、チューナーとしての渴望力が消えかけていた自分に、再び立ち上がる勇気を与えてくれた相手なのだから……。

「俺がいまココにいるのは、GT-Rのおかげだよ。どんなクルマよりも魅力がある。コイツのチューニングが楽しくて仕方がないんだよね」。

そう笑顔で言い残し、颯爽とファクトリーの奥へと去って行くトップチューナーの背中からは、力強さと、そして輝かしい未来が感じられた。



O・Z

オーゼットジャパン ☎053-469-5011 <https://www.ozracing.com>

THE
RECOMMEND
WHEELS



ATELIER FORGED Superforgiata

TOP SECRET
R35GT-R
M17 EDITION

MATCHING SIZE

F : 11.0J×20+30
R : 11.0J×20+15

OZ 35GT-R SF TOPSECRET

オーゼットレーシングホイールの王道を貫くマルチスポークを採用した、見た目にも軽量でバランスに優れた10本スポークが特徴。シャープなスリムスポークであるが、縦断面をしっかりと確保することで高い剛性を誇る。その縦断面も無駄肉が徹底的に除去されているのが分かるが、とにかく凄まじい軽量ホイールである。



PRICE LIST (without tax)		
19インチ	8.5J~12.0J	¥161,000~¥184,000
20インチ	8.5J~12.0J	¥176,000~¥216,000
21インチ	12.5J	¥256,000

※カラー：グリジオコルサ/マットブラック/セラミックポリッシュ



イタリアのホイールメーカーとして高い芸術性を誇るオーゼット。その緻密なディスクデザインを再現するためにラインアップの中心は鍛造製法を採用しているが、一方でスーパースポーツに向けたモデルは鍛造製法を採用して極限までハイスペックを追求。ここで紹介する2本はまさに、鍛造製法を採用した「アテリエ・フォージド」シリーズに属するモデルだ。

オーゼットはF1やWRC、インディ、フォーミュラEといった世界最高峰のレースシーンに数多くのホイールを供給していることで知られる。F1に至っては参戦する10チーム中の7チームがオーゼット・

そのままレースを戦えるほどにハイスペック



オーゼットレーシングホイールの王道を貫くマルチスポークを採用した、見た目にも軽量でバランスに優れた10本スポークが特徴。シャープなスリムスポークであるが、縦断面をしっかりと確保することで高い剛性を誇る。その縦断面も無駄肉が徹底的に除去されているのが分かるが、とにかく凄まじい軽量ホイールである。

PRICE LIST (without tax)		
19インチ	8.0J~10.5J	¥132,000~¥144,000
20インチ	8.5J~12.0J	¥161,000~¥175,000
21インチ	8.5J~11.5J	¥194,000~¥206,000

※カラー：グリジオコルサ/マットブラック
マットダークグラファイト/ブラッシュド



ATELIER FORGED Zeus HLT FORGED

PHOTO：金子信敏/河野マルオ/岩島浩樹

ホイールを装着しているが、各チームと綿密に打ち合わせを行い、剛性を優先するのか、ブレーキ冷却にも寄与する空力を優先するのか…といったようにパフォーマンスを導き出していると言う。

そんなレーシングモデルの設計・開発を行うチームによる市販モデル。手加減するような器用さを持ち合わせていない彼らだけに、そのスペックは凄まじい。

まずは「スーパーフォーリアータ」。オーゼット・ホイールのフラッグシップに君臨するモデルだが、撮影用に借りたサンプルを持って、その驚異的な軽さにショックを受けた。19インチだというのに

軽々と片手で持ち上げられる。いや、小指1本で持ち上げられるんじゃないか…と思うほどのインパクトだ。もちろん、スーパーカーやハイチューンドに要求される剛性値に余裕を持って応える。その性能に惚れたトップシークレットの永田代表がオリジナルモデルの展開を行っているほどである。

対して「ゼウス HLT フォージド」。正対すると不安に思えてくるほどにシャープでロングな2×5スポークで構成されるモデルだ。スーパーカーを中心に「ビッグブレーキシステムを魅せる」ことをコンセプトに開発されており、加飾するのではなく一切の無駄を排除した機能美デザインが持ち味。もち

ARTISAN SPIRITS
BLACK LABEL GT
LC500

MATCHING SIZE

F : 9.5J×20 275/40R20
R : 11.0J×20 315/35R20

ろん、鍛造製法と設計力が合わさり、むしろ装着車両のスペックが試されるほどのハイスペックを誇る。

両モデルともに機能を重視しているだけに、ディープリムやコンケーブといったデザイントレンドは反映されていない。しかし、そのままレースホイールとしても通用する高性能を有する。本物が欲しいと願うなら、オーゼット・ホイールはその期待に必ず応えてくれるだろう。